

タンザニアの眼科医が研修

現地の治療支援、NPOが招く

アフリカのタンザニアで眼科治療を支援している日本のNPO法人が、現地の眼科医を初めて招き、国内各地で約1カ月の研修をしている。4日は小牧市内で、2008年に超音波白内障治療機器を贈った小牧

ライオンズクラブに治療の成果を報告した。

来日したのはダルエスサラームの国立ムヒンビリ大
学病院の眼科代表アンナ・サニイワさん(45)。白内障を治療した目の個数は、支援によって年間300か

ら500に増加。「手術の質も向上し、眼科に興味を持つ学生も増えた」という。

NPO法人代表の山崎俊さん(44)は春日井市の眼科医。医師と看護師、技術者のチームが07年から毎年現地を訪ね、治療の指導や機器のメンテナンスをしている。タンザニアでは失明する人の半数が白内障によるという。



左から、小牧ライオンズクラブ会長の稲垣さん、在日本タンザニア大使館の清水邦子さん、小牧市在住のタンザニア人フランクさん、タンザニアの眼科医アンナ・サニイワ先生、私（山崎）、小牧ライオンズクラブ元会長（眼科機器寄贈時の会長）の吉田さん

愛知県小牧市は 2005 年に開催された愛知万博で、タンザニアのフレンドシップ自治体に選ばれました。その後も民間を中心にタンザニアとの交流が続いています。